

令和7年度 第4四半期 (1月～3月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

調査概要

- 調査対象
(1)対象地区：豊橋市内 319 社
(2)回答企業数：137 社 (42.9%)
- 調査期間
令和8年1月～3月
- 調査方法
郵送 (ファクシミリにて返信)、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 54・建設業 23・卸売業 15
小売業 18・運輸業 13・サービス業 14

全産業業況 DI 値は前回調査から 4.0 ポイント改善、令和6年度第4四半期からは 6.9 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲3.6 (前期比+4.0、前年同期比+6.9)、来期見通し (令和8年4月～6月) については▲11.0 (当期比▲7.4) となった。

前回調査では悪化に転じたが、今回は持ち直しの傾向がみられた。卸売業・小売業では大きく改善された一方、運輸業・サービス業では大きくマイナスとなった。一部では需要が堅調であるとの明るい声もあったが、依然原材料やエネルギー価格の高騰、採用難・人手不足を不安視する声が多い。不透明な海外情勢を懸念するコメントも多く聞かれた。

設備投資は、「実施した」との回答が 53.4 (前期比▲4.3、前年同期比+17.8)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 55.0 (当期比+1.6) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲5.8 (前期比+6.9、前年同期比▲4.2)、来期の見通しについては▲15.4 (当期比▲9.6) となった。

IT 業界や半導体関連を中心に需要は堅調であるとの声があったが、全体的には原材料価格や人件費の上昇が利益を圧迫している、人材確保が難しいとの回答が多かった。鉄工業では中東情勢の影響を指摘する声、食品製造業では原材料に加えて包材価格や物流費の高騰を懸念する声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「従業員・技術者の確保難」が主にあげられる。

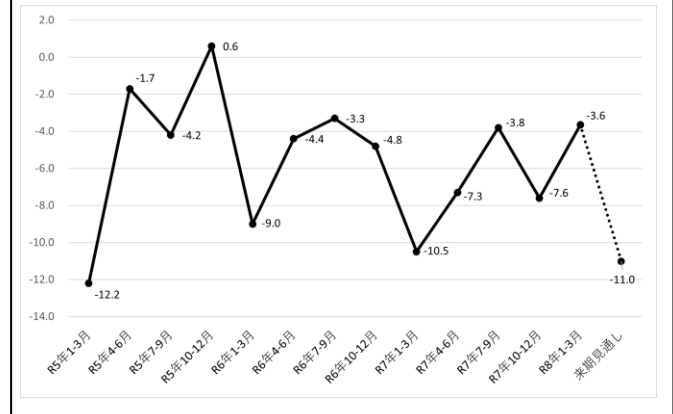
■建設業

業況 DI 値は▲4.3 (前期比▲0.6、前年同期比+23.5)、来期の見通しについては▲22.7 (当期比▲18.4) となった。

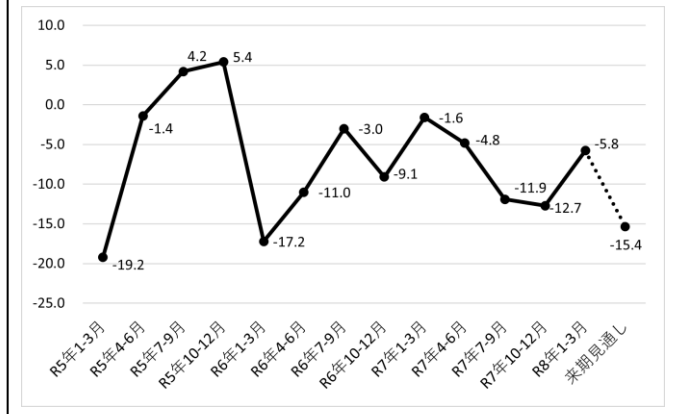
官庁によるインフラ関連需要や民間の設備投資等、一定の仕事はあり堅調に推移しているとのコメントがあった一方、需要の停滞、資材や原油価格の高騰、人件費の増加や人手不足を懸念材料として挙げる声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員・技術者の確保難」、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」が主にあげられる。

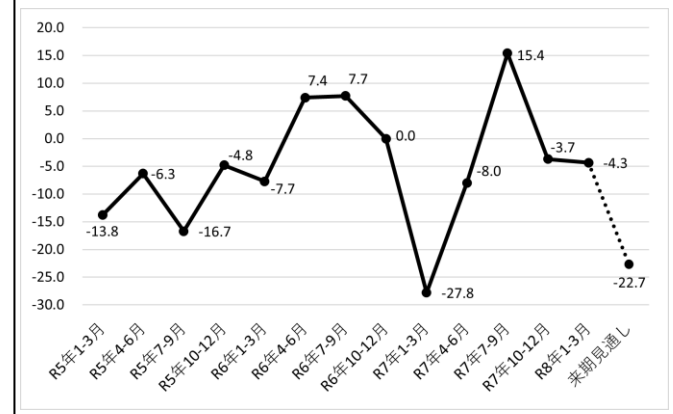
全業種 DI 値の推移



製造業 DI 値の推移



建設業 DI 値の推移



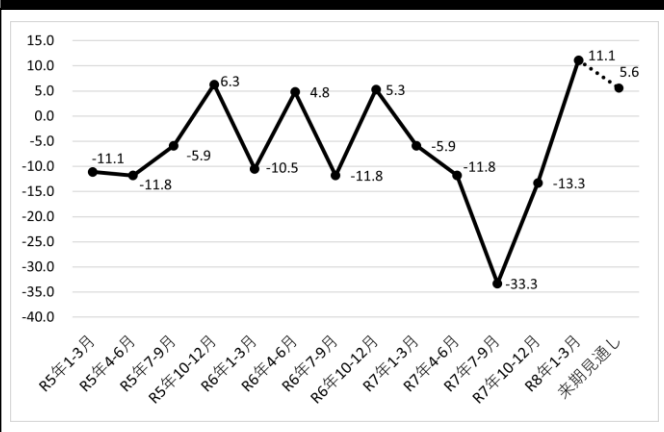
■卸売業

業況 DI 値は+11.1（前期比+24.4、前年同期比+17.0）、来期の見通しについては+5.6（当期比▲5.5）となった。

建材卸売業ではリフォーム需要が堅調であるとの声、食品卸売業では新規取引先を開拓できたとの明るい声があった。一方で、仕入価格の高騰に加え、輸送費や管理費の増加、円安の影響等で同業社の廃業が増えていることを懸念する声もあがった。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」がトップ、次いで「人件費の増加」、「従業員・技術者の確保難」があげられる。

卸売業 DI 値の推移



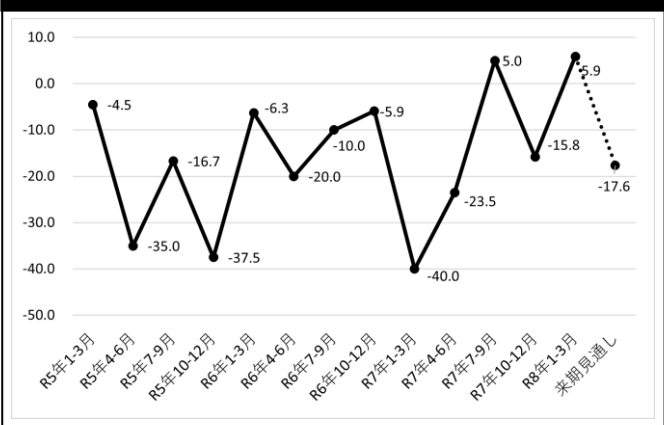
■小売業

業況 DI 値は+5.9（前期比+21.7、前年同期比+45.9）、来期の見通しについては▲17.6（当期比▲23.5）となった。

事務用品販売店では需要が増加傾向である、衣料品店では寒さのため冬物の売れ行きが好調だったとの声があった。一方で、来期の見通しについては、ガソリン小売業を中心に中東情勢次第であるとの声、自動車販売業では中国資本をはじめとした外資の参入が脅威であるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」がトップ、次いで「従業員・技術者の確保難」、「原材料価格の上昇」があげられる。

小売業 DI 値の推移



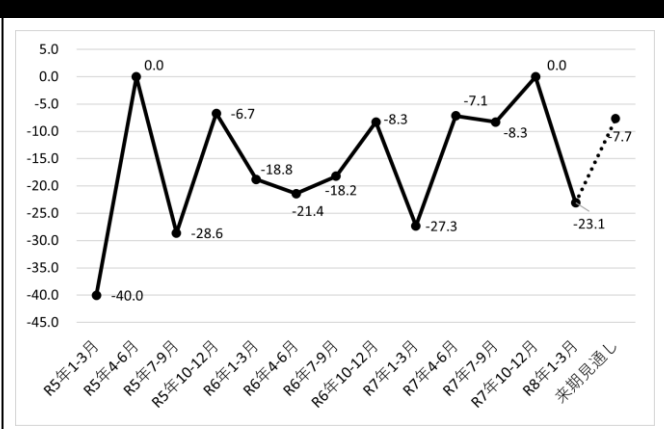
■運輸業

業況 DI 値は▲23.1（前期比▲23.1、前年同期比+4.2）、来期の見通しについては▲7.7（当期比+15.4）となった。

顧客が運送料金改定に理解を示してくれているとの明るい声がある一方で、募集しても従業員を採用できない、燃料価格の高騰が厳しいとの声があった。特に中東情勢を懸念する声が多く、長引けば利益が圧迫されるとの指摘があった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員・技術者の確保難」、「原材料価格の上昇」、「人件費以外の経費の増加」があげられる。

運輸業 DI 値の推移



■サービス業

業況 DI 値は 16 期振りのマイナス圏となる▲7.1（前期比▲19.6、前年同期比▲29.3）、来期の見通しについては+7.1（当期比+14.2）となった。

飲食店では、値上げしたがこれ以上は厳しい、観光客の利用が減っている、警備会社では、料金改定は実現したものの、従業員の高齢化や人手不足が課題だとのことであった。全体的に人材の確保難を懸念する声が目立った。

経営上の問題点としては、「従業員・技術者の確保難」がトップ、次いで「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」があげられる。

サービス業 DI 値の推移

